

自己評価項目一覧

—園長編—

2025年度

苫小牧聖ルカ幼稚園

<評価基準> A おおむね良い B 普通 C 改善を要する

評価分類			内 容	評価
I 教育内容	1	保育の計画	① 建学の精神に基づき教育理念や教育目標を明文化している	A
			② 教育課程は教育理念に基づき、教育要領の精神を踏まえて編成している	A
			③ 社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮し必要に応じて教育課程の見直しを行なっている	A
			④ 幼児の生活が豊かになるように行事を精選し、幼児の発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行なっている	A
	2	教職員体制の充実	① 教職員が園の教育理念や教育方針を共通理解するための取組みを行なっている	A
			② 指導計画が教育要領、教育課程、幼児の実態に即したものになっているかを把握し、指導助言できる体制をつくっている	B
			③ 教師が上級免許や他の資格を取得したり、教員免許の更新をしたりする機会を確保している	B
	3	指導の在り方	① 環境を通して行う幼稚園教育の特質を理解し、発達の道筋を見通して教育的価値のある環境を計画的に構成している	A
			② 幼児の主体性と教師の意図とのバランスを考慮しながら、幼児が主体的に活動できる環境構成している	A
			③ 幼児とのかかわりのなかで信頼関係を構築するよう努める。安全で心地よく過ごすことができる環境を整えている	A
			④ 幼児一人ひとりの発達の特性に応じた指導を行なっている	A
			⑤ 教職員全員で一人ひとりの幼児を育てるという視点に立って、教職員間の共通理解と協力体制を築き、指導を行なっている	A
			⑥ 遊びを通しての総合的な指導を行なっている	A
			⑦ 障がいのある幼児に対して、家庭や関係機関と連携しながらその状態に応じた指導内容や指導方法の工夫をしている	A
			⑧ 子どもの発達と学びの連続性を確保するため、幼稚園と小学校との連携を図っている	A
	4	研修や研究	① 教育内容の質の向上や改善のため、園内研修を企画し行なっている	B
			② 教師の資質向上のために、公的機関などが開催する研修会などに参加する機会を確保している	A

			③ 個々の教師が自分の課題を把握し、その課題が達成できるような指導体制をとっている	B
Ⅱ 地域の幼児 教育センタ ーとしての 役割	1	子育ての支援	① 子育ての支援のために、未就園児の親子登園や子育て相談、情報の提供などを実施している	A
			② さまざまな教育に関する相談を受け入れている	A
			③ 子育ての支援に当たって、児童相談所や病院などの専門機関に相談や連携ができる体制を整えている	A
	2	預かり保育	① 教育課程に基づく活動を考慮したうえで預かり保育の内容を検討し、計画的に行なっている	A
			② 預かり保育を担当する教師の体制を整えている	A
Ⅲ 安全管理	1	外部侵入者・来訪者などに対する安全対策	① 幼稚園施設整備指針に基づき、適切な防犯体制を整えている	A
	2	施設・設備・園児に対する安全対策	① 地震などの自然災害に対する防災対策を整えている	B
			② 幼稚園設置基準を踏まえ、施設設備の安全管理に努めている	A
			③ 消防法を踏まえ、消防計画を作成し実施している	A
			④ 防火管理者を定めて防火管理を行っている	A
			⑤ 設備や遊具の点検を定期的に行っている	A
	3	衛生管理	① 幼稚園設置基準を踏まえ、衛生管理に努めている	A
			② 学校保健法を踏まえ、保健安全計画を作成し実施している	A
			③ 学校保健法を踏まえ、園児及び教職員の健康診断を実施している	A
			④ 学校保健法を踏まえ、伝染病予防や発生に対応している	A
			⑤ 学校保健法により、学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置いている	A
Ⅳ 人事管理	1	園の教育目標達成のための人事	① 幼稚園設置基準を踏まえ、園の教育目標が達成できる人事を行っている	A
			② 幼稚園設置基準を踏まえ、個々の教職員が自己評価などに努めている	A
	2	教職員の雇用条件	① 労働基準法に基づいた労働条件を整備し、明示している	A
			② 私立学校教職員共済法を踏まえ、教職員の福利厚生に努めている	A
	3	就業規則に基づく労務管理	① 労働基準法に基づいて就業規則を作成し、行政官庁に届け出ている	A
	4	教職員の健康管理	① 学校保健法に基づき、毎年、教職員の健康診断を実施している	A

V 財務管理	1	予算作成及び予算管理	① 学校法人会計基準に基づき、予算書を作成している	A
			② 月次で予算管理を行い、補正予算が必要な場合は理事会の承認を得ている	A
	2	決算	① 学校法人会計基準に基づき、会計処理を行うとともに財務計算に関する書類を作成している	A
			② 決算は公認会計士の監査を受け、適正であることの証明をつけて監督官庁に届け出ている	A
	3	納付金算定	① 園児納付金の算定に関しては、算定根拠をしっかりともち、外部に説明できるようにしている	A
	4	物品購入	① 教材などの在庫は種類・量共に、適切に管理している	B
VI 評価と情報の公開	1	評価	① 重点目標とそれを達成するために必要な評価項目を定めて自己評価を行っている	B
			② 自己評価の結果や分析、それを踏まえた今後の改善方策を自己評価の結果報告書にまとめている	A
			③ 学校関係者評価委員会を設置し、自己評価の結果について学校関係者評価を行っている	A
	2	情報の公開	① 幼稚園設置基準により、教育活動その他の学校運営の状況について、積極的に情報を提供している	A
			② 公開する情報の中で、個人情報とされるものについては保護されるようにしている	A
			③ 自己評価の結果を公表している	A
			④ 学校関係者評価の結果を公表している	A
			⑤ 幼稚園幼児指導要録の抄本・写しを小学校に送付し、情報の共有と相互理解を図っている	A

2025年度 自己評価（園長編）の結果及び改善策

Ⅰ 「教育内容」についての評価結果及び改善策

〈評価結果〉

幼児期の発達段階に応じた保育・教育を計画的に実施し、保育や遊びを中心とした活動の中で、子どもが主体的に取り組む姿が増えた。保育教諭間で週案・日案を共有することで、環境構成や援助統一が図られている。個別配慮の必要な園児に対する支援体制の強化、ICTを活用した記録の効率化なども年々少しずつではあるが進んでいる。また幼小連携についても今まで以上に充実させ、就学支援にも一定の成果がある。

〈改善策〉

職員間で0から5歳児までの教育観、園の理念や教育方針のさらなる共有を図り、主体的な職員育成も強化していく。保育者たちが自発的に学ぶ機会をつくりやすいような環境を整え、質の向上に繋げる。

Ⅱ 「地域の幼児教育センターとしての役割」についての評価結果及び課題

〈評価結果〉

毎月、子育て支援事業（地域開放）の実施により、地域の乳幼児家庭の利用も増加している。近隣小学校と連携した取り組みの継続により、安心した教育の連続性が実現されている。

〈課題〉

園の存在が地域の子育て拠点としてもっと認知されるために、支援ニーズの多様化に対処するための専門性向上が課題。また、地域の関係機関との情報共有の仕組みをより整理していく必要がある。ホームページ、SNSや広報媒体を活用した情報発信の強化も求められる。相談支援の充実も必要。

Ⅲ 「安全管理」についての評価結果及び改善策

〈評価結果〉

避難訓練は年間計画に基づき毎月実施され、事故防止のための点検も定期的に行っている。完全抜き打ち避難訓練も年に1～2回程度実施し、緊張感をもって臨み、その都度あがってくる課題や反省を次に活かすよう取り組んでいる。感染症対策、アレルギー対応などもマニュアルに沿って適切に行われている。

〈改善策〉

ヒヤリ・ハットの共有をさらに促し、職員間でリスク感度の平準化を図る。長期休業中に起きた緊急津波警報で避難した経験を通して不十分な備えの反省から、常日頃より不測の事態への備えを強化する必要がある。老朽化設備の計画的な更新のほか、安全管理の見える化を強化する。

Ⅳ「人事管理」についての評価結果及び改善策

〈評価結果〉

年度初めと半ばの２回面談を実施し、各職員の振り返りが行われている。新人支援体制は機能している。職場の人間関係は概ね良好。組織内のコミュニケーションも概ね保たれている。

〈改善策〉

業務量と勤務時間の偏りを減らすため、職務分担の見直しと標準化を行う。また、ミドルリーダーの育成を強化し、園全体のマネジメント力向上につなげる。離職防止のための働きやすい環境整備（休暇取得・メンタルケア）も継続する。研修参加率が上がる環境整備も必要。

Ⅴ「財務管理」についての評価結果及び改善策

〈評価結果〉 会計処理も規程に基づいて実施されている。補助金申請・報告手続きも適正に行い、大きな指摘事項はない。

〈改善策〉

少子化の影響を煽り年々園児数が減少する中で、適正な職員数を保持しながら、円滑な保育の職員体制も強化していく。建物が７～８年経過となった現在、中長期的な修繕計画の明確化、ICT 投資や人件費の将来的な増加に備えた財源確保方策が必要。園の実情に応じた経費の優先順位付けをより明確にし、努めて計画的な無駄のない支出を心がける。

Ⅵ「評価と情報の公開」についての評価結果及び改善策

〈評価結果〉

自己評価は毎年度実施し、結果を共有している。保護者アンケートも実施し、園だよりやホームページで情報公開を行っている。

〈改善策〉

評価指標の明確化と、改善計画の年度途中での進捗確認を定例化する。自己評価の結果を共有するとともにより改善に繋げていく。また、保護者や地域への情報公開をより分かりやすく、タイムリーに行うために、公開方法の見直し（図表化・年間スケジュール化）を検討する。